

## 1. 検討テーマ

### 1 東部地域における緑の復興について

## 2. 検討委員会での議論・主なご意見

○第2回（平成24年9月24日（火） 18時00分～20時00分 市役所本庁舎2階 第二委員会室）

#### 〔全体的な視点〕

- ・なぜやるのかを数世代に渡ってしっかりと伝える
- ・市民の人が参加するにあたって、共有するビジョンの打ち出し
- ・生活の中で使うということを含めてしっかりと伝承するシンボルとしての位置づけ
- ・海岸公園の整備構想と連携した取組み
- ・震災前の生活を積極的に活用し、記憶を後世に継承する取組みとして位置づけ

#### 〔景観の再生〕

- ・都市近郊の良好な水田景観としての再生
- ・景観の再生にも資する配慮した緑の復興

#### 〔緑地の活用〕

- ・出来あがった緑地をどう使うのか
- ・出来あがった緑地が愛されて使われる場所とするため、利用のイメージを共有しながらのデザイン
- ・つくったものを使う、楽しむ仕掛けづくりが必要
- ・自分が植えたところが具体的にみえる取組み

#### 〔居久根の再生〕

- ・農業のあり方と密接に結びついた居久根の再生
- ・農村集落の生活と居久根の杜ゾーンとの結びつき
- ・擬似的なものとするか、農村生活の再生まで踏み込むのか

○第5回（平成26年2月3日（月） 16時00分～18時00分 市役所本庁舎2階 第一委員会室）

#### 〔全体的な視点〕

- ・何かしらのシンボルなどが組み込まれる必要がある
- ・木を植えて育てていくプロセスを共有すること自体が記憶をつくる

#### 〔仕組み〕

- ・失われたものを作り直したという物語を共有できる仕組み

#### 〔居久根の再生〕

- ・民有地の居久根を維持するのは困難
- ・今後はパブリックな空間にどのように居久根の景観を復活させるか、それを市民が共有できるものにするかを検討する方が有効
- ・被災した方が住めなくなった故郷と関わりを持つための仕掛けとして居久根の復活を検討

#### 〔その他〕

- ・メモリアルとして残せる樹木については、パブリックなサポートを入れるなど制度の検討が必要

### 3. 平成26年度の検討内容

第1四半期			第2四半期			第3四半期			第4四半期		
			◎			◎			◎		
■ふるさとの杜再生プロジェクト事業検討 (市民協働によるスキーム・樹種や植え方・関係団体との連携強化・支援呼び掛けを含めたPR活動など)											
新緑祭			百年の杜づくりフォーラム						市民植樹実施 (背後地1号公園)		

#### 〔ふるさとの杜再生プロジェクト〕

- ・市民協働による事業スキームの検討
- ・樹種や植え方の検討
- ・関係団体との連携強化
- ・支援呼び掛けを含めたPR活動

#### 〔各種イベント〕

- ・市民植樹実施（背後地1号公園）
- ・新緑祭の開催
- ・百年の杜づくりフォーラムの開催等

## 1. 検討テーマ

### 2 歴史的資産としての貞山運河の利活用について

## 2. 検討委員会での議論・主なご意見

○第2回（平成24年9月24日（火） 18時00分～20時00分 市役所本庁舎2階 第二委員会室）

#### 〔全体的な視点〕

- ・後世に伝えていくシンボリックな取組み
- ・スポーツ・レジャーに限定しない利用
- ・400年続いた暮らし・生業の痕跡をどのように残していくのかが重要
- ・この地域に根付いていた住民の思いを組み入れた取組み
- ・無くなって初めて分かる思いを未来に繋げることができる取組み
- ・海や山が身近にある恵まれた地域特性を上手く取り込める仕掛け
- ・荒浜小学校の保存と連携した仕掛け

#### 〔仕組み〕

- ・市民やNPOなどいろいろな人が関われるような共助・協働の仕組み
- ・住民生活や地域の歴史が未曾有の規模で破壊されたことを伝承する仕組み
- ・市民が積極的に提案できる仕組み
- ・パブリックアートとしての仕掛けやアーティストとの連携
- ・貴重な生態系の活用も重要

#### 〔その他〕

- ・残っている木々の保存
- ・被災した人たちがどのように感じるか不安

○第4回（平成25年12月20日（金） 16時00分～18時00分 市役所本庁舎2階 第一委員会室）

#### 〔全体的な視点〕

- ・若い世代の人達と一緒に活動することで次の世代にもつなげていく
- ・歴史的背景を踏まえて震災のことを伝え、学ぶ
- ・時間をかけて形成し、成長していくというビジョンをコンセプトワークの段階から盛り込んでおく
- ・ハードだけではなく、市民の知恵等ソフトの部分もうまく組み合わせていく
- ・後世に伝えていく術をきちんとつないでいく
- ・メモリアルは、誰のために、何を伝えていくのかという部分が大きな課題

#### 〔具体的な課題/ハード面〕

- ・憩いの場所となるような飲食店を周辺に配置して欲しい
- ・津波が来たところが分かる目印の様なものを組み込んで後世の人達に伝えていくことができればいい
- ・避難施設を整備する際には、背景となる仙台平野を考慮したデザインの提案にしてほしい

#### 〔具体的な課題/ソフト面〕

- ・スポーツ・レジャー、記憶の継承、美しい景観、豊かな環境という4つの項目をつなぐことができる3.11ツアーの様なものを開催
- ・運河と震災の両方を歩きながらガイドしてくれる人がいるといい
- ・利活用は完成する前から始められる、今出来ることの情報提供も必要（例えば、工事の様子を見学できる安全な場所等）

#### 〔その他〕

- ・アプローチ道路や既存市街地との接続等、周辺道路の検討が必要
- ・後に被害状況を俯瞰して見る事ができるように、仙台市や宮城県で定期的に航空写真を撮り続けて欲しい

### 3. 平成26年度の検討内容

第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
	◎	◎	◎
■ 海岸公園災害復旧事業			
■ 利活用検討			
<p>〔県との調整〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 貞山運河沿川への桜植樹の取り組みに関して県と調整</li> <li>・ 親水空間としての活用手法（ボート乗り場等）について県の整備計画と調整</li> </ul> <p>〔海岸公園整備〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成26年度から国土交通省災害復旧補助金を活用した整備を開始</li> </ul>			

## 1. 検討テーマ

### 3 震災アーカイブの利活用について

## 2. 検討委員会での議論・主なご意見

○第3回（平成24年11月5日（火） 18時00分～20時00分 せんだいメディアテーク1階 オープンスクエア）

#### 〔全体的な視点〕

- ・物に対する記憶や、人の思いがアーカイブされないと後世に伝わらない
- ・記憶と記録は両輪であり、片方だけでは伝わらない
- ・記録したうえで、記憶を何らかの形で定義づけることが必要
- ・遺構が見える場所の近くにアーカイブがあると有効
- ・住民だけの意見ではなく日本全体で考えて判断が必要

#### 〔拠点〕

- ・100年後に伝えるためには、常駐のスタッフがいて、いつでも写真や映像が集められて、いつでも話が聞ける拠点が必要
- ・伝える場所・感じたものを置いておく場所が必要

#### 〔仕組み〕

- ・市民と行政のコラボレーションが必要
- ・フィクションには事実以上に大きなインパクトを持って迫る力があるので、集めて、参照できるようにしておくことが必要
- ・時間の経過とともに変わる被害状況を記録に残す仕組み
- ・3月11日の出来事だけでなく、それ以降の出来事も対象とする長い時間をかけ継続したプロジェクトの検討
- ・域外の方への発信方法の検討
- ・写真などのデータを自由に使える仕組み

#### 〔その他〕

- ・防災コーディネーターやプランナーの人材育成と人材データベースの構築
- ・仙台発の防災減災プロジェクト

○第5回（平成25年2月3日（月） 15時30分～17時30分 市役所本庁舎2階 第一委員会室）

#### 〔全体的な視点〕

- ・長く伝えるためには拠点や語る場、作業をする人が必要
- ・記録を取り続けるだけでなく、感情などを全部のせて残す必要がある
- ・色々な使い方や作り方など相乗効果が出るような提案を検討

#### 〔仕組み〕

- ・震災遺物もアーカイブして実在の物として保存
- ・絵本や絵、彫刻などフィクションも必要
- ・震災を体験していない方が震災のときの状況が分かるような仕組みが必要
- ・津波の遡上ラインに桜を植えるなど、何世代か後でも目印になるような仕掛けが必要
- ・アーカイブは保存しておくだけでは伝わらなくなるので、200年位のスパンで持たせる仕組みを検討
- ・数十年先の将来の市民の目線で継承することを検討

#### 〔その他〕

- ・マスメディア等に対してアーカイブなどの連動などの積極的な働きかけ

### 3. 平成26年度の検討内容

第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
	◎	◎	◎
■オーラルヒストリー検討	■事業実施		
■拠点整備検討	■計画策定		
■アーカイブシステム構築に向けた資料収集【県被災地域デジタル化推進事業】		■仮稼働	

〔オーラルヒストリーを活用した震災アーカイブの取り組み〕

- ・後世に伝えるべき項目の検討（被災体験談、復興への思い、3.11の過ごし方など）
- ・被災体験談など、市民の方から直接聞き取る手法を市民協働型の取り組みとしての実施の検討
- ・インターネットやEメールを活用した仕組みや、広報紙（市政だより）などを活用した仕組みの検討
- ・既存の取り組みとの連携の検討
- ・いただいた内容をデジタル化のうえ、震災アーカイブとして集約し、広く国内外に発信するとともに、冊子化を検討

〔拠点整備検討〕

- ・交通アクセスや施設配置を考慮し、新設だけでなく既存施設のスペースの活用を検討
- ・拠点に求められる機能を市民活動との役割分担を考慮し検討（受付窓口、閲覧機能、展示、イベントの企画・開催）
- ・遺構として保存を検討している「荒浜小学校校舎」などとの連携を検討

〔被災地域記録デジタル化推進事業〕

- ・アーカイブシステム構築に向けた資料収集

# 1. 検討テーマ

## 4 東日本大震災における遺構保存及び東部地域におけるモニュメント整備について

# 2. 検討委員会での議論・主なご意見

○第3回（平成24年11月5日（火） 18時00分～20時00分 せんだいメディアテーク1階 オープンスクエア）

### 〔全体的な視点〕

- ・シンボライズされたような工夫がないと400年伝わらない
- ・客観的事実はどんな人とも共有できる道具
- ・痕跡を見ることで現在の自分と過去の自分を結び合わせるの、なるべく多く残す方向で検討
- ・具体的に物が残るとそこから記憶が蘇る
- ・辛い出来事だったからこそ残さなければならない
- ・震災に関する行政文書をできる限り捨てずに残す

### 〔遺構保存〕

- ・残すべきもののリスト化
- ・遺構の保存は「物」として残さなければならないが、その物は400年持たない
- ・遺構保存の議論は広い考え、長い時間を視野に入れた議論が必要
- ・荒浜小学校は被害の大きさを体感する場所として特別で貴重な場所
- ・荒浜小学校は300人以上が無事に助かったという点では希望の象徴

### 〔モニュメント〕

- ・過去を振り返るだけでなく明日に向かうものとしてのモニュメント
- ・モニュメントは脈絡のない像などはやめてほしい

### 〔その他〕

- ・残せない場合は説明のうえ、資料として残す
- ・語り部のアーカイブも必要
- ・仙台市が先頭を切って3月11日を休みにして、考える日とする

# 3. 平成26年度の検討内容

第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
	◎	◎	◎
■荒浜小学校校舎利活用検討	■遺構保存検討		
■荒浜地区周辺基礎群活用検討			
■モニュメント整備検討	■意向調査・説明会・ワークショップ開催		■実施に向けた検討

### 〔遺構保存〕

- ・荒浜小学校校舎については、構造診断の結果を精査のうえ、利活用方針の検討を行い、周辺建物基礎群の保存についても併せて検討
- ・利活用方針決定後、利活用の原案を作成のうえ、パブリックコメントを実施
- ・パブリックコメント実施によるご意見を踏まえ成案を策定
- ・遺構保存に関しては、宮城県で行っている「宮城県震災遺構有識者会議」の動向を見つつ検討を進める

### 〔モニュメント整備〕

- ・地元の委員会・町内会等と意見交換のうえ、アンケート・地元説明会を開催
- ・ワークショップなどを開催しながら、実施に向けた検討を行う